

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 期第 6 回相模原市中央区区民会議（グループ A）		
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 0 2（直通）		
開催日時		令和 7 年 1 2 月 2 3 日（火） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 4 0 分		
開催場所		相模原市民会館 3 階 第 1 大会議室		
出席者	委 員	7 人（別紙のとおり）		
	その他	0 人		
	事務局	2 人（区政策課職員）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">開 会</div> <div style="margin-bottom: 10px;"> 1 議題 中央区基本計画の取組状況の検証について ○グループ A <ul style="list-style-type: none"> ・取組目標Ⅰ：健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている ⇒【子育て・教育】【生涯学習・社会教育】 ・取組目標Ⅱ：自分らしく、いきいきと暮らしている ⇒【福祉、高齢者、貧困】、【人権・男女、障害者、国際化】、【健康、医療】 </div> <div style="text-align: center;">閉 会</div>		

主な内容は次のとおり。

■取組の方向Ⅰ－１ ②子どもの健全な育成環境の充実【追加】

（吉田委員）

大人目線で子どもたちの登校の見守りを行うのではなく、子どもたちが自ら安心して安全に登校できるような環境作りを行うよう働きかけている。具体的には、横山小学校と作の口小学校の児童が作成した交通安全に関するポスターを登校ルートのような様々な箇所に掲示することで、注意喚起を行っている。ポスター作成の依頼はPTAが学校側に行い、ポスターの内容については、あくまでも生徒自身で考えることで、子どもたちは交通安全に対する意識を強く持つようになる。また、大人ではなく、子どもたちがポスターを作成することで、クレームの抑制に繋がり、温かい目で見守ってくれるような地域文化の醸成を担っている。

子ども会などの地域団体も毎年減少し地域での繋がりが希薄化している中、少しでも子育て世代に関心を持ってもらえるような取り組みを行っていくことで、子育て世代が高齢者予備軍の年齢になったときに地域に参画していくきっかけの一つになればと思っている。

■取組の方向Ⅱ－２ ②バリアフリー環境の充実【追加】

（高橋委員・吉田委員）

2019年からイオンリテールが光が丘、田名、横山地区で移動販売を行っている。各地区で移動販売する場所はイオンリテールに要望して決まっており、主には高齢者施設や住宅街、団地の広場などに来てもらっている。元々は包括支援センターの地域づくり部会の検討内容に高齢者の買い物支援が挙がっており、高齢者は気軽に買い物に行けないことが多いので、逆に販売者に来てもらう形にできないかとの話から移動販売の実現に繋がった。

■取組の方向Ⅱ－２ ③多文化共生の推進

（八木委員）

星が丘地区では、中央区千代田に拠点があるHEROという団体を通じて外国籍の人に声をかけ、ふれあいフェスティバルで模擬店を出店してもらったり、防災訓練に参加してもらっている。また、自身が所属する自治会の隣の区域である横山2丁目自治会では、ごみ置き場に多言語の案内を表記している。

（清水委員）

保育園や認定こども園では、入所する児童の中でも多文化・外国籍の子どもが増えてきている。園のルールを説明したり、連絡ノートに記載したりするときには、スマホの翻訳アプリを使って対応している。園の行事の中には日本の文化のものがあるが、外国籍の人にも行事参加してもらうため、丁寧に説明している。また、外国籍の人の多くは自治会に加入していないため、児童がどこの地域なのかかわからない。そのため、地域の案内ができないことを苦慮している。

園で提供している給食についても、アレルギー等ではなく自国の文化により食べられないものがあるのでその対応もしている。

（藤田委員）

小学校でも学校によっては、日本語クラスを作り、そこで生徒に日本語学習の機会を設けているという話も聞いている。子どもがいると、子どもを介してそこから両親たちの交流にも繋がっていき、地域やPTAに加入する流れがある。一方で、集合住宅等に住んでいる就労で海外から来ている世帯が地域に溶け込むということは難しいのではないかな。

（吉田委員）

多文化共生については、地域特性でばらつきが生じている。横山地区では、そもそも外国籍世帯が入ってきていないので、多文化共生について意識する機会がない。例えば、集合住宅のごみ捨てにおけるマナー問題もあるが、文化の違いで生じている問題なのか、それとも単にマナーが悪い人が原因で生じているのか判別にも困る場合もある。

(事務局)

地域によっては、外国籍の人と接触する機会が少ないなど、地域差があるようだ。

■取組の方向Ⅱ－３ ①健康増進活動の推進

(八木委員)

星が丘地区での健康増進活動は、１００歳体操が主である。全自治会が実施している。一方で、自治会集会所で開催しているため参加人数は限られており、ほとんど参加者が自治会加入者である。

(高橋委員)

きずなパークキングの事業実施にあたっては、医療や福祉関係者と話をする機会が多くあるので、社協として医療や福祉関係者と連携を取りながら、高齢者支援事業のきっかけを広げていければよいと思う。

(吉田委員)

新型コロナウイルスの感染拡大が顕著であった頃は、行動規制がかかっていたことから、その頃に外出していなかった人の体力の衰えを顕著に感じる。年齢等の避けられない部分はあるが、日常的に歩いていないことで生じるネガティブな影響は多い。そのため、地域内のウォークラリーや健康ウォーキングのようなものを開催し、地域の人が見守れる範囲で楽しく歩いてもらうような取り組みを来年あたりに実施したいと考えている。

(八木委員)

ウォーキングの関係だと、自身で目標を立てて、その目標を達成できると景品がもらえる取り組みを２年近く実施している。包括支援センターが主体となり、自治会に参加していない人も参加可能だ。包括支援センターをイベントの窓口にすることで、包括支援センターの存在を知ってもらうきっかけづくりにも繋がっている。

(高橋委員)

横山地区では９月のアルツハイマー月間に、地域内の花植え事業を行った場所をウォークラリーのイベントを行った。ウォークラリー達成者には景品や記念品をプレゼントした。

また、コミュニティ形成事業の一環として、横山地区と下九沢地区の拠点で、ボッチャや輪投げ、１００歳体操を継続して行っている。参加者をより多く集めるため、ポイント制にした。地域や社協に関わる活動に参加するとポイントが付与され、一定のポイントに達すると地域の商店街で使える商品券などをプレゼントする制度を導入した。予算については、社協内の予算で対応している。この制度を導入してからは、年々利用者も増えていった。健康増進の一つのツールになっているのではないかな。

(浅野委員)

マルシェの運営で、子どもが喜ぶ取り組みとして、スタンプラリーを実施している。各店舗のスタンプを集めると、受付で抽選に参加できるということを行っている。子どもが動く両親も動くことになる。働き方も変わり、在宅ワークも増えている最近では、スタンプラリー等のイベントを開催し、運動不足予防にも繋がっていききたい。

閉 会

以 上

第8期第6回相模原市中央区区民会議（グループA） 委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	中 牟 田 好 江	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら		出席
2	藤 田 寛 之	相模原市P T A連絡協議会		出席
3	清 水 洋 子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
4	高 橋 年 廣	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会		出席
5	原 田 克 也	一般社団法人相模原市医師会		欠席
6	浅 野 由 佳	公募委員		出席
7	八 木 鉄 雄	星が丘地区まちづくり会議		出席
8	吉 田 貴 亮	横山地区まちづくり会議		出席
9	割 柏 秀 規	光が丘地区まちづくり会議		欠席